

令和初の秋の講演会開催

11月2日（土）に令和最初の秋の講演会を開催しました。今年度は、大阪府社会福祉会館を会場に愛媛大学教育学部准教授の加藤哲則先生にご講演をいただきました。たくさんの方にご参加していただき、有意義な講演会となりました。第69号では、みなさんからお寄せいただいたアンケートから、ご感想を紹介します。

「学齢聴覚障害児の日本語読み能力と学力」

講師 愛媛大学 教育学部 特別支援講座 准教授 加藤 哲則 先生

参加者の感想

・ 普段から聴覚支援で指導していて気になることが聞けてよかったです。

「聞き取りがいいのに、学力がそうでもない。」

「ペラペラお話ししているのに、教科書を読むとあまり読むことができない。」このケースの子は、こんなのかなと予想することができましたが、実際に研究結果を出してもらって少しすっきりしました。活用できていないのに自分のものになってないということが大きな原因で、これをどうやって伸ばしていくのかは本当に悩んでいます。個人個人対応の仕方は違ってくるのかもしれませんが、色々やってみて少しずつ効果を出していきたいです。

「わからない言葉でも触れておく」というお話については同感します。授業で丁寧に対応していきたいです。

・ 日本語の力についてどう考えているのか、日々悩むことが多く、今日はたくさんのお話を聞かせていただき、大変勉強になりました。子どもたちの学力の評価について、どう力をつけるのか、まだまだ考えなければならないことを改めて感じました。語彙力があっても読めない、書けない、子どもも多く別の視点から力をつけなければならないと思いました。

・ 聴覚障害の子どもたちの聞くことが単語を聞き取っていて文章全体を理解していない読解モデルが異なるという事実を受けて言語をどう活用していくか、どのようにそれを指導していくかを考えていかなければならないと感じました。教師も子どもの言葉の環境要因の1つという事を肝に命じてこどもに関わっていききたいと思います。



・健聴児の読解モデルと、聴覚障害児の読解モデルが異なるということを経験の結果分析を通して、分かりやすく説明していただきました。今回の講演で教えていただいた異なるという結果を踏まえ、子どもたちにどう関わるか、宿題をいただいたので、考えていきたいと思えます。

・新しい研究結果を含めて難しい内容でしたが、非常に丁寧にお話して下さり、ありがとうございました。読解モデルが、健聴児と聴覚障害児とでは異なるという結果は私個人として驚きでした。これまでやってきた聞き取り評価についても、今日のお話を踏まえた上で、見て行きたいと思えます。今後の指導内容や方法をどうしていくべきか、やってみるのは現場の我々です。しかし、どういう「理念」でどこを目指していくのかの指針は研究の現場から光を放って欲しいと思えました。

・CARDについて詳しくお話して頂いてわかりやすかったです。とても興味がある検査なので、実際に関わっている子どもたちにもやってみてみたいと思えました。

聴覚障害児の読解構造モデル、聴覚障害群の読み能力が学力に及ぼす影響のところから聴覚障害がきこえる子とは違った読解モデルがあることがわかりましたが、だからどうやって指導していくのがいいのかは、難しいなと思えました。

知っている言葉をどれだけ活用できるか、言葉環境を整えるかは、できそうなのところもあるので、やってみてみたいと思えます。



感想の他にも、数多くのご意見、改善案をいただきました。次年度以降の参考とさせていただきます。ありがとうございました。

今後の予定

令和元年	12月上旬	冬の学習会の案内 機関紙69号 発行
令和2年	1月31日(金)	第3回代表委員会(滋賀県立聾話学校)
	2月1日(土)	冬の学習会(草津市 フェリエ南草津)
		「最近の難聴児医療と教育との連携」
		講師 滋賀県立小児保健医療センター耳鼻いんこう科副医長 金沢 佑治 先生
		「聴覚障害のある児童生徒の言語 ～培われたものから自ら発信して繋ぐものへの変容～」
		講師 京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科 准教授 高井 小織 先生
	3月下旬	集録第21号発行・機関誌70号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

事務局長 内門 祐

〒640-8272

和歌山県和歌山市砂山南3丁目1番73号

和歌山県立和歌山ろう学校内

TEL: 073-424-3276

FAX: 073-424-0310

メール: uchikado-y002@wakayama-c.ed.jp